常磐毎日新聞

日刊

九月二十日夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本忠治
福島縣平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　（振替口座）東京四〇二二〇番

天氣豫報

今晩は南西の風天氣次第によくなる明日は南西の風後曇

事變を背景に
激闘を展開
試合に先立つて社前に献ぐ默禱
制覇の榮譽磐中に輝く
昨日の中等教員野球戰

スポーツマンシップの高揚と體育の實際的な奬勵に教壇を球場に延長し多大な示唆を與へる意味に於て秋のスポーツ界を飾る異色ある催し本社主催の中等學校教員野球リーグ戰は昨十九日平商

球場に　於てその第四回大會を開催された、朝來薄雲のシートが秋陽の直射を避けて絶好の野球日和に先年優勝校の磐女軍を先頭に磐中、平商の各精鋭勇躍入場、優勝旗の返還あつて川崎社長挨拶を述べ直ちに縣社子鍬倉神社に參拜、皇軍の戰捷と併せて三校出身

將兵の　武運長久を三分間に亙つて默禱し厳かに玉串を奉奠、再び平商球場に繰り込みリーグ戰に依る抽籤の組合せを決定、淺水磐中校長の鮮やかな試球式に依り球審熊、壘審坂井、水竹の各審判の許に先づ二年制覇の意氣に燃ゆる磐女軍と恋邊の雪辱に捨身の

必勝を　期する磐中軍との白熱戰は磐中先攻に依つて午前九時五分開始、勢力伯中の大接戰に興味の最高調を展開、遂に補回戰に入るや磐中軍の健棒正に貴重な一点を擧げ應援隊は狂喜亂舞、次いで卅分間の休憩にその創痍全く癒せる磐女軍は好敵手平商軍を迎撃してその痛憤を晴らさんと息詰る

猛襲を　企てたが打倒磐女、打倒磐中の意氣物凄く制覇のチャンスを虎視眈々として狙ふ平商軍の闘志滿々、二回の表に一擧三点を入れてその氣概を示し、遂に十對七の差を以つて引き放し磐女惜しくも涙をのんで敗退、最後の磐中對平商は何れが本年優勝の榮冠を擔ひ得るかゞ興味の焦点となつて觀衆の熱狂裡に平商先攻で開戰、磐中破竹の勢ひで一、二の兩回に一点宛を入れたが平商三回目にその

痛棒を　押へて二点を擧げ一時は接戰を見せて勝敗何れとも豫斷を許さぬ形勢を示した處六回目に於て磐中の大量六点が遂に大勢を決定的なものとし平商の意氣銷沈、三對九を以つて磐中の大勝に歸して喜色に包まるゝ磐中軍の手に優勝旗は獲得する處となり、佐藤東朝記者其他の祝辭あつて午後三時半大會の幕を閉じた

試合經過

5磐女—磐中6
貴重な一点！
勢力伯中の大接戰
磐女軍の健闘空し

△一回（磐中）山本、柳澤、大村（何れも三振三者凡退）（磐女）土岐四球、大内投邪、鈴木正投邪、土岐三進、新妻左頭上を抜く二壘打に土岐生還、鈴木光三邪（磐女一點先取）

△二回（磐中）小林三振、新谷四球、下山田第一球の時新谷二盜成り、下山田投邪にしたが新谷三進、谷澤三振（磐女）松浦三飛、田中三ゴロは一壘手落球でセーフ、蝦名投邪、田中二盜した、金子三邪、（兩軍〇）

△三回（磐中）吉岡屋四球樋口0―2に吉岡屋二盜、樋口三振、山本遊撃強襲ゴロは遊撃手暴投して吉岡屋三進し、柳澤三邪は一壘手落球して吉岡屋、山本還る大村三振、小林中堅前のフライが安打となり柳澤二進、新谷0―2の時捕手落球して柳澤還る、下山田遊飛（磐女）土岐三邪、大内右前安打、鈴木正四球、新妻投飛が三壘手と衝突して落球して一死滿壘となり磐女絶好のチャンスを得る、鈴木光四球に大内押し出されて還り、松浦遊撃左を抜く安打に鈴木還る、田中エンターフィアーで捕手に刺され、蝦名の二邪に終る（磐中3―2磐女）

△四回（磐中）谷澤四球、吉岡屋中堅前の安打で一、二進、柳澤の代者熊谷となる、熊谷一壘右の安打で無死滿壘となり、山本四球で谷澤押出されて還る、柳澤右頭上の安打に吉岡屋還り、大村二飛の時柳澤重殺し、小林右飛、（磐女）金子遊撃頭上を抜く安打、土岐四球、大内投邪、鈴木正中堅頭上を抜二壘打に二者生還、新妻四球、鈴木光三振、松浦二飛（磐中2　磐女2）

△第五回（磐中）新谷三振下山田四球、谷澤三振吉岡谷第一球に下山田一―二間に挾まれて一壘にセースとなり滿塲の人氣を博す、谷澤、吉岡屋三振に倒れ後援續かず（磐女）田中、蝦名、土岐三者凡退（兩軍〇）

△第六回（磐中）熊谷二飛山本投邪、柳澤遊邪、（磐女）土岐四球、大内三飛、鈴木正遊飛、新妻遊邪（兩軍〇）

△第七回（磐中）大村投邪小林四球、新谷の時（磐女投手と捕手交替となり大内捕手、鈴木正投手となる）三邪、下山田遊邪（磐女）鈴木光三飛、松浦三邪、秋山（田中の代打）投邪（兩軍〇）で補回戰に入る、

△八回（磐中）谷澤三振、吉岡屋四球、熊谷四球山本四球一死滿壘となる、柳澤三邪、大村四球、熊谷押し出され生還、小林遊邪（磐女）蝦名三振、金子投飛、土岐三振（磐中1―0磐女）

（磐中）	打	得	安	盜	三	四
山本 捕	5	1	0	0	1	1
柳澤 三	5	1	1	1	1	0
大村 一	5	0	0	0	2	1
小林 遊	5	0	1	0	1	1
新谷 投	4	0	0	2	1	2
下山田 左	4	0	0	0	0	1
谷澤 中	4	1	0	0	3	1
吉岡屋 右	4	2	1	3	1	2
樋口 二	1	0	0	0	1	0
熊谷 二	3	1	0	0	0	2

（磐女）	打	得	安	盜	三	四
土岐 二	5	1	1	4	1	3
大内 投捕	4	1	1	0	0	0
鈴木正 捕投	4	1	1	1	0	1
新妻 三	4	1	1	0	0	1
鈴木光 遊	4	0	0	0	1	0
松浦 一	4	0	0	0	0	0
田中 右	3	0	0	0	0	0
秋山 右	1	0	0	0	0	0
蝦名 左	4	0	0	0	1	0
金子 中	3	1	2	0	0	0

磐中 0 0 3 2 0 0 0 1　6
磐女 1 0 2 2 0 0 0 0　5

（球審）熊（壘審）水竹、酒井（バッテリー）磐中新谷—山本、磐女大内—鈴木正、終了十時五十分

平商10—磐女7
平商の健棒に
磐女惜しくも敗退
遂に再制覇を逸す

△一回（平商）若松三振、下山田捕手前のゴロで併殺阿部三振（磐女）土岐投邪、大内遊邪、鈴木正三邪（兩軍〇）

△二回（平商）宮澤遊撃頭上を抜く安打、菅原四球、新田遊撃強襲は一壘手に暴投して宮澤生還、走者二―三進、大澤四球で無死滿壘となる武川二壘頭上を抜く安打で二者還る、玉手二飛に大澤三壘に重殺、武川二盜ならず、平商まづ三點を先取す（磐女）新妻二壘手を抜く安打、鈴木光遊撃左の安打、松浦投邪に新妻三壘に併殺、鈴木三進、田中投前の犧打は内野安打となつて一死滿壘となる、蝦名四球で鈴木光押出されて還る、金子三振、土岐投邪（平商3―1磐女）

△三回（平商）若松一邪、下山田遊邪、阿部遊飛（磐女）大内遊撃左の安打、鈴木正遊飛、新妻二壘左を抜く安打に大内三進、鈴木光二壘頭上の安打に大内還り、松浦四球、一死滿壘となりチャンスを摑む、田中三壘邪は新妻を併殺、エビ名投邪に倒れチャンスを逸す（平商0―1磐女）

△四回（平商）宮澤右飛、菅原三振、新田三邪に生き、大澤四球、武川第一球の時新田三壘盜壘してならず（磐女）金子四球、土岐投ゴロは金子併殺、大内投ゴロに二壘手落球して二者セーフ、鈴木正二壘ゴロに大内併殺、その間に土岐カへり新妻投ゴロ（磐女1點で同點）

△五回（平商）武川遊飛、玉手四球、若松一―一に玉手盜壘成り若松四球、下山田三飛は玉手三壘で重殺（磐女）鈴木光四球、松浦内野安打で二―三進、田中の三ゴロは三壘手惡投して鈴木カへる、エビ名捕飛、金子四球、土岐遊飛松浦重殺で一死滿壘になつたが後援つゞかず（磐女4―3平商）

△六回（平商）阿部二壘右を抜く二壘打、宮澤投飛、菅原第一球に阿部三盜成る、菅原投邪に一壘手落球して阿部生還、新田四球、大澤四球で一死滿壘平商絶好のチャンスを摑む、武川二壘頭上の安打に菅原還る、玉手の内野ゴロは新田、大澤を重殺（平商二點を獲得一點リード）（磐女）大内三邪は暴投して二進、鈴木正二壘左を抜く安打に大内還る、鈴木二盜新妻四球、鈴木光遊飛松浦投邪、走者二―三進、田中投邪（磐女一點を獲得し同點となる

△七回（平商）若松二壘頭上の安打、下山田3ボールの時若松二盜成る若松四球、阿部第一球に若松、下山田二、三進、阿部三邪は若松を本壘で重殺、宮澤遊撃頭上を抜く安打に下山田生還、菅原三飛は三壘手落球して一死滿壘となり再び平商チャンスを摑む、新田四球で押出し阿部かへり大澤の時捕手のケンセイ球が暴投となり宮澤かへり、一擧三點を獲得して三點のリードとなる大澤四球で再び滿壘となり武川四球で菅原かへる、玉手の時（磐女投手大内、捕手鈴木正となる）玉手遊撃頭上を抜く安打に新田還つて平商一巡す、若松三飛、下山田投邪（平商五點リード）（磐女）えび名捕邪、金子三振、土岐四球、大内四球、鈴木正一壘左を抜く安打に二者生還、鈴木三盜の場合右翼手からの走球にさゝえる、磐女を二點を返したが結局十對七で平商に凱歌が上る、閉戰午後一時、（球審）水竹（壘審）熊、坂井（バッテリー）平商若松—阿部、磐女鈴木正—大内

平商 0 3 0 0 0 2 5　10
磐女 0 1 1 1 1 1 2　7

二壘打平商阿部、磐女鈴木正

（商平）	打	得	安	盜	三	四
若松 投	5	0	1	0	1	1
下山田 左	5	1	0	1	0	1
阿部 捕	4	2	1	1	1	0
宮澤 遊	4	1	2	0	0	0
菅原 右	4	3	1	0	1	1
新田 一	4	2	0	1	0	2
大澤 二	4	0	0	0	0	4
武川 中	4	0	2	0	0	1
玉手 三	4	0	1	1	0	1
	38	9	8	4	3	11

（磐女）	打	得	安	盜	三	四
土岐 二	5	2	0	1	0	1
大内 捕投	5	3	1	1	0	1
鈴木正 投捕	5	0	2	1	0	0
新妻 三	4	0	1	0	0	1
鈴木光 遊	4	2	2	0	0	1
松浦 一	4	0	1	1	0	1
田中 右	4	0	0	0	0	0
蝦名 左	4	0	0	0	0	1
金子 中	4	0	0	0	2	2
	39	7	7	4	2	8

平商3—磐中9
磐中制覇なる
大量一擧に六點!!!
平商軍の宿望破る

△一回（磐中）山本四球、柳澤三ゴロ、大村三ゴロは一壘に暴投して二―三進小林投ゴロに山本本壘ならず、新谷三壘失に大村カへる、下山田四球で滿壘となつたが熊谷の投ゴロで後援續かず（平商）若松二壘左の安打、下山田三ゴロ、阿部投ゴロ、宮澤投直（磐中一―〇）

△二回（磐中）吉岡屋三ゴロは一壘手落球して生き、樋口一―一に吉岡屋二盜成り、山本（二―二の時投手二壘にケンセイ球を送つて暴投となり吉岡屋一擧本壘を衝いて成功）柳澤四球、大村四球、小林三飛（平商）菅原四球、新田二ゴロに菅原併殺、大澤四球、武川右前の安打で滿壘となつたが玉手投ゴロ、若松投ゴロに終る（磐中一―〇）

△三回（磐中）新谷三遊間の安打、盜壘なり、下山田二ゴロの時新谷二―三間に狹まれ憤死、熊谷三振、吉岡屋三振（平商）下山田投ゴロ、阿部四球、宮澤四球、菅原二壘左を抜く安打に二者生カへり、新田遊撃頭上の安打、大澤、武川投ゴロに終つたが最後に平商二點を獲得同點となる（平商二―二）

△四回（磐中）樋口投ゴロ山本四球、柳澤の左飛が左翼手と中堅手が衝突して落球して山本三進、大村遊ゴロが山本をカへし、小林三ゴロは内野安打となる、新谷四球で滿壘となつたが下山田遊ゴロ（平商）玉手投ゴロ、若松投飛、下山田二壘右の安打、阿部遊撃頭上安打、宮澤二遊間安打に下山田カへり、菅原遊ゴロ、（三―三の同點）

△五回（磐中）熊谷投ゴロ吉岡屋三振、樋口三振（平商）新田二飛、大澤四球（磐中投手小林、新谷遊撃となる）武川三振、玉手投邪

△六回（磐中）山本投ゴロ柳澤投飛、大村右飛に右手が落球して生き小林中堅頭上安打に大村かへる、新谷四球の時捕手落球して小林かへる、下山田四球、熊谷二―三の時新谷ホームスチールに成功してかへり熊谷二壘右の安打に下山田かへり、吉岡屋四球、樋口三壘右を抜く三壘打で走者一掃して一擧六點を獲得、山本二ゴロに倒れる、（平商）若松二ゴロ、下山田遊飛、阿部二飛、（磐中六―〇平商）

△七回（磐中）柳澤、大村二死の後小林遊ゴロは一壘に暴投して二進、新谷四球、下山田三振（平商）宮澤三壘直球は三壘手落球して安打となつて二―三進したが菅原、新田、大澤の三者凡退で得點なく九對三で磐中優勝す、閉戰三時五分

磐中 1 1 0 1 0 6 0　9
平商 0 0 2 1 0 0 0　3

三壘打磐中樋口、（球審）坂井（球審）水竹、熊、バッテリー磐中新谷—山本

（磐中）	打	得	安	盜	三	四
山本 捕	5	1	0	1	0	2
柳澤 三	5	0	0	1	0	1
大村 一	5	2	1	1	1	1
小林 遊投	5	1	1	2	0	0
新谷 投遊	5	1	1	2	0	3
下山田 左	5	1	0	2	1	2
熊谷 中	4	1	1	0	1	0
吉岡屋 右	4	1	0	0	2	1
樋口 二	4	1	1	1	1	0
	42	9	5	10	6	10

平商バッテリー若松—阿部

（平商）	打	得	安	盜	三	四
若松 投	4	0	1	0	0	0
下山田 左	4	1	1	0	0	0
阿部 捕	4	1	1	2	0	1
宮澤 遊	4	1	1	3	0	1
菅原 右	4	0	1	0	0	1
新田 一	4	0	1	1	0	0
大澤 二	4	0	0	1	0	2
武川 中	3	0	1	0	1	0
玉手 三	3	0	0	0	0	0
	34	3	7	7	1	5

教員野球總評
—熊審判談—

參加三チーム共技量全く伯仲し共守備力に於て又攻撃力に於て、只結極は微妙なる極めて少差のあつた投手力が勝敗を左右してしまつた形である。

×　×

磐女大内投手始め極めて好調を示し磐中危しと見えたが中途にして筋を痛め交代の止むなきに至つたのは氣の毒の感が深い代つた鈴木投手の好投もランナーを一度壘上に出せば威力全く蔭をひそめ四球安打續出され、連敗して昨年の優勝校はつひに退場の止むなきに至つた、鈴木投手にして試合慣れと試合度胸とがあつたなればおそらく本年も優勝の榮冠を得た事と思ふ。平商若松投手は最初より良く綏球を投じて打者を惱まして居つたが對磐中六回目の亂れはつひに致命的となつて優勝を失ひ磐中をして名を成さしむるに至つた。併し最後迄一人にて健闘したのは多とするに足る。磐中新谷投手は本人の性格を顯はすが如く一球一球狙を定めて鄭重に投じた處に磐中軍を有利に導き優勝の因をなしたものと確信する。

×

對平商戰五回より代つた小林投手亦健闘も見逃すは出來ない。磐女は投手交代に依つて敗戰し磐中は投手の持駒多きに依つて優勝したと云つても過言でない。

×　×

三試合ともシーソーゲームを演じ觀客をして手に汗をなさしめ最後迄豫斷を許し得さる好試合であつた。第一回の當時より何れとも技量格段の向上を示した事は地方野球界の爲最も喜ばしく又各プレーヤーの立派なる態度は敬服に値する。

平市の伊藤助役
けふ着任の挨拶

新任平市助役伊藤秀吉氏は去る十八日着任、二十日市内各官衙團体、銀行會社等に挨拶した

同僚から盜む

内郷村磐炭坑夫秋田縣生れ猪口幸金（二四）は去る十七日夜坑夫合宿から同僚山下二郎所有の洋服、衣類、等六圓を竊取二十日平署に檢擧

湯本區會議員改選

湯本町區會議員の改選は十月一日午前十時から行はれるが十九日午後一時から町役場に最終區會を開き基本土地の處理問題につき協議した

炭坑賭博一網打盡

内郷村磐炭綴坑土工淺淺吉（四九）同坑夫白瀧捨次郎（三三）同支柱夫海野初太郎（四〇）同坑夫鮮人金眼玉事金山金太郎（四四）同曲山勇喜（四〇）の五名は十九日夜十一時頃前記淺吉方で花賭博開帖中平署に踏込まれ一網打盡檢擧された

葬儀費を節約して

市内中鹽字沖四〇大和田秀勝氏は去る十六日愛妻タカヨさんを亡くしこの葬儀費用の一部金二十圓を二十日國防金として平市役所に寄託した

家賃棒引
家主の義俠

小名濱町瀧尻吉田喜八氏は店子である同町竹町五通三郎君が妻子二人を殘して勇躍壯途に上つたので未拂家賃六圓五十錢を棒引するほか出征中は家賃を全免することを申出この溫情に附近民は感謝してゐる

平市人事

◎出生
△紺屋町三八酒類商塙幸吉氏次男武久君

◎死亡
△番匠町十九武男氏次男馬場一博氏（三〇）

平職業紹介所

☒求人の部
△女工　四十歳迄　給料面談　尋卒程度
△鐵工　三十歳以下　給料面談　尋卒程度
△採炭夫　十八—四十才迄　日給一圓五十錢　尋卒程度
△印刷工　年令不問　委細面談　尋卒以上
△土工夫　教育年令不問　日給一圓二十錢
△雜夫　教育年齡不問　日給七十錢
△牛乳配達　三十才位　給料面談　高卒程度

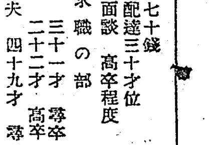
☒求職の部
△鐵工　三十一才　尋卒
△雜夫　二十二才　高卒
△土工夫　四十九才　尋卒
△漁夫　三十才　高卒

JOHK

今晩の部
▼後六、〇〇（子供の時間）お伽歌劇『グリラおぢさん』キクノハナ歌劇研究會
▼後七、三〇 講演と實驗『耳のどこが惡くて聽えないか』醫博山川强四郎
▼後八、〇〇 謠曲『放下僧』外觀世左近二『金札』外觀世左近
▼後九、三〇 時報　ニュース　明日の話題　氣象通報　番組豫告

明日の部
▼前一〇、三〇 婦人講座（大阪より）『秋と讀書』科學大阪教授理博吉田貞雄
▼後〇、〇五 和洋合奏　富士管絃樂團
▼後〇、一三 國民歌謠『征けよますらを』外　有島通男、月村光子
▼後二、〇〇 小學生の時間ラヂオスケッチ『秋のおとづれ』朗讀東京赤羽校田中安子外
▼後二、三〇 商業講座『廣告費と販賣高に就て』髙橋傳吉
▼後六、〇〇 童謠劇　大阪童謠劇研究會外
▼後六、二五 農家の時間『軍部より農村に望む』陸軍糧秣本廠長陸軍主計少將鹿野澄
▼後七、三〇 講演（天津より）馬廠攻撃實況　赤柴部隊陸軍歩兵大尉水口照夫
▼後八、〇〇 馬と虫の鳴聲（口笛）高須賀大三郎
▼後八、一五 俚謠『おつゝら馬唄』鎌田春藏外
▼後八、三〇 ハープ・フルート加藤敬子外
▼後八、五五 浪花節『上洲長脇差閻魔堂十人斬り』木村松太郎

たひら正宗
美味！　芳醇！
山崎合名會社　電話一〇番



白柄劍風速
大島多慶夫作
井川洗厓畫
（劇高）布施長春
（朗）村瀬泰映

臥龍城下（一）　二五七

「お婆さん。休ませて貰ふよ」

と、五左衛門が聲をかけると、老婆さんの凹い凹んだ眼はギラギラと陰しく瞬いた。

「はい〳〵。どうぞ」

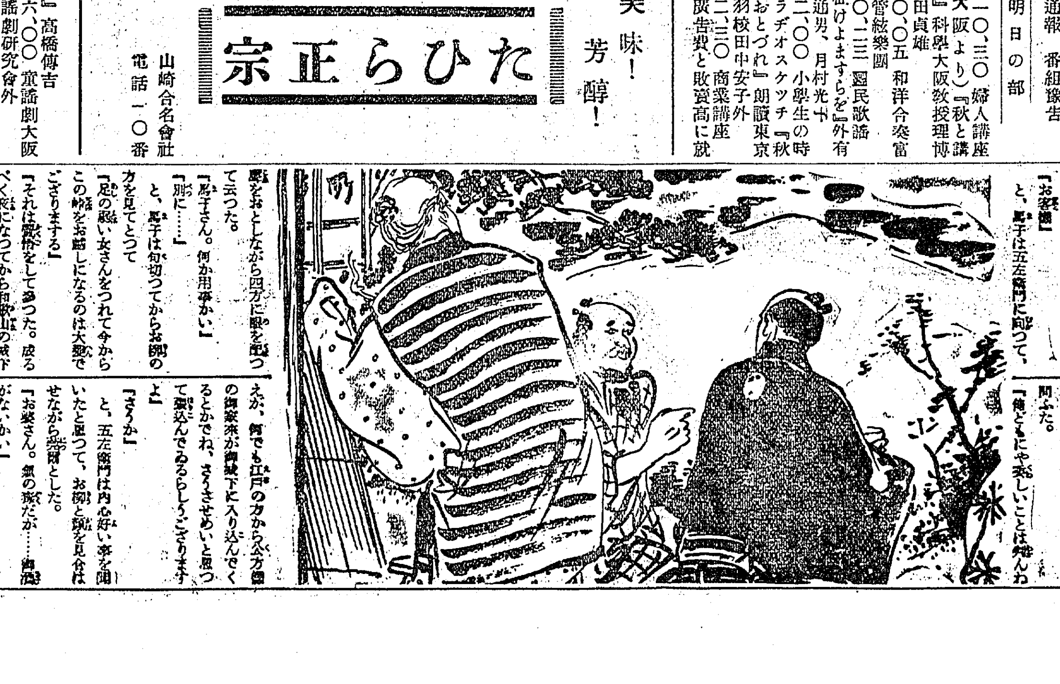
馬子は歯切れの好い江戸辨の五左衛門とお獅を、頭の先から爪先までじつと見入つてゐた。

荷物商人は茶代を拂つて、會釋をしながら立去つてゆく。

山と山の間。ちやうど谷のやうなところであるから、陽の影は早くかげつて、もう黄昏の色が迫つて來た。茶店の老婆さんは澁紙を貼つたやうな掛行燈へ灯を入れてウンと手ばなをかんだ。

「お客樣」

と、馬子は五左衛門に向つて、



聲をおとしながら四方に眼を配つて云つた。

「馬子さん。何か用事かい」

「別に……」

と、馬子は句切つてからお獅の方を見てとつて

「足の弱い女さんをつれて今からこの峠をお越しになるのは大變でございまする」

「それは覺悟をして參つた。成るべく夜になつてから和歌山の城下へ入りたいと存してなあ」

「夜になつてね」

「お客樣。物騒でございますよ。この山は昔から物取が出るところでなあ」

と、老婆さんも眉をひそめて心配さうに云つた。

「まあ」

と、お獅は不安さうに五左衛門の顏を見た。が、しかし、大膽な男まさりであるからそんなことには別段に恐怖したやうな色は[illegible]かつた。

「お客さんは江戸からござらしつたんだね」

と、また馬子は口を開いた。

五左衛門はうつかり云はうと思つたが、和歌山近くで江戸から來たといふことは、仰人の耳へ入れても危險なのですこし躊躇つた。

「いや。江戸詰になつて居つたので……言葉は江戸訛だが、やつぱり俺は和歌山藩のものぢや」

「さうかね。それならば好いが……この山を越えると稼う紀州領で、和歌山の御城下から御役人が出張つてゐてね。この頃やかましく調べて居りますよ」

「それはまた如何いたしてぢや」

と、五左衛門はお獅の顏をチラリと覗きながら馬子の方を向いて聞ふた。

「俺どもにや委しいことは判んねえが、何でも江戸の方から公方樣の御家來が御城下に入り込んでくるとかでね、さうさせめいと思つて張込んでゐるらしうございますよ」

「さうか」

と、五左衛門は内心好い事を聞いたと思つて、お獅と顏を見合はせながら苦笑とした。

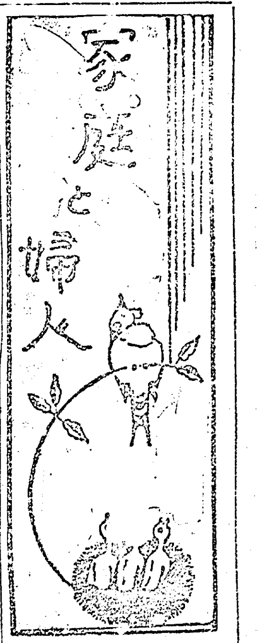
「お婆さん。飯の支度だが……御酒がないかい」

と、五左衛門は自分が飲むよりも、馬子に馳走して置いて、もつと委しく容子を探らうと考へたのであつた。

老婆さんは皺だらけの手を揉みながら、五左衛門の方へ寄つて來た

「ござりま…が……どうせ此處で造つた御酒だから、江戸の方からござらしつたお客樣のお口にめすかどうだか判らねえだね」

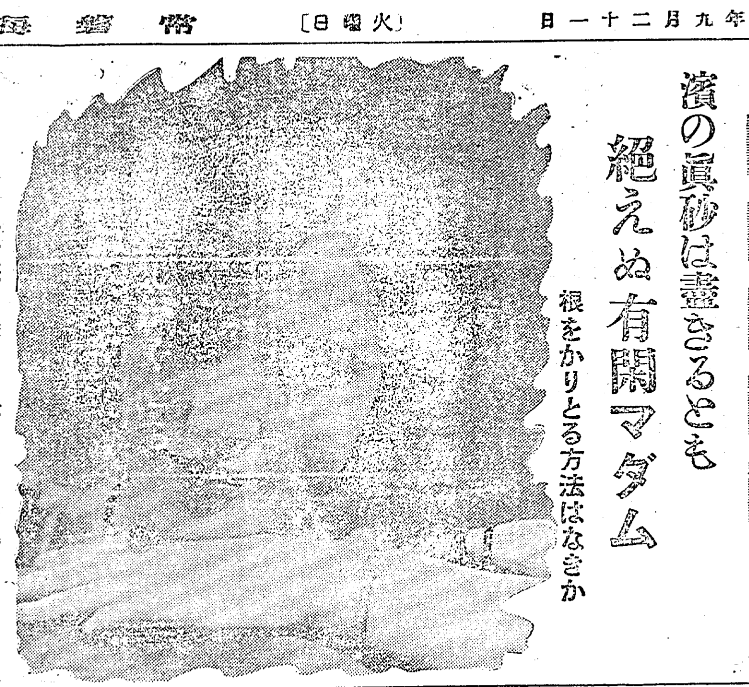
「いや。飲み馴れて居るから、その心配は御無用ぢや。一つ燗をして貰はうかな」



今日の言葉

濱の眞砂は盡きるとも 絶えぬ有閑マダム

根をかりとる方法はなきか



又してもダンスホールを中心に行はれた桃色マダムの桃色行狀——否、紅行狀が暴露され、それにともなふ恐喝の副産物も明るみにさらされて ぞく／＼これ等の惡の華がかられて行つた

…◇…

世紀末の生んだ必然的産物とは云ひ條聞きたくも無い不潔な話

…◇…

歐洲戰後しばらくつゞいた好況と與はにせん情的な外國映畫の影響と、これも外來の自由主義、個人主義思想とにつちかはれた、デカタンスな、戀愛至上主義禮讃かぶれ「男女七才にして席を同じうせず」式に育てられて來た愼ましい節操の高い婦人たちにまで、容赦なく吹き込むエロスの惡魔から、お金と閑のある結構な境遇がわざわひして、妻たり母たる身が、分をわすれての惡行は、これを裁くのに情状酌量の餘地なんか毛頭ない

◇

その夫は、多分婦人より以上の職務に沒頭して、家をも妻をも、ものかは——彼の自由な活躍が多くかへりみられぬ家庭の淋しさから、お金とひまにまかせての火遊びをして、キタナイ生活を送る事になる——勿論、それ等の夫たる人もよくないにきまつてゐる。だが、夫を外に追ひやる妻にも何等かの缺陷がないとも云へまい

…◇…

何れにもせよ、夫婦といふものが何年も一つ家に顔を合はして生活すれば肉身通しの間柄とひとしく、斷ちがたくはあつても段々に心と心と呼喚し合ふ感情の樂しみはなくなつて來るのは當然——

…◇…

そんな時を倦怠期と人は呼んで、相互の嫌惡な氣分を是認し合ひながら、砂をかむに似た夫婦生活がつゞく——これが世の中の一般の夫婦生活圏といふもの

…◇…

が、幸か不幸か、生活に眼縮されてゐる大衆はおもひきつたわき道にそれることをゆるさない爲に表面無事平穩にすぎてゐるだけで、もしお金とひまを持つ、よき境遇な何かをこらえた夫婦生活はかならず當然パチンと彈ちけずにはゐない

…◇…

そして、一と度び、桃色に染まるとやがては眞赤に血まみれてゆくのは成りゆき上の當然

…◇…

今度、檢擧された桃色マダムの中には三十六歳といふ分別盛りに、一人でわづかの間に、十五人の男を手玉にとつたといふ、心臓の圖太さに、呆然たる事實が摘發された以下、一人の桃色に——七、八人の男

…◇…

パット世間に自分たちのスキャンダルがひろがればもう再び名聲の恢復は出來がたく、永遠に「淫な女」の烙印を額にきざまれなければならない——として、説諭で微罪釋放——の體裁で事すみて、やはりお金とひまのある、不貞の温床にかへつてゆくだけだ

…◇…

世の中の妻や母たちは、生活で眞つ黒になつてゐるといふのに——何とも、もつたいなくもくやしい話ではある

…◇…

こんなマダム連が、よしやどんな仕事を計企したとて、ろくなことは出來るはずもない せめてスキャンダルを流して、社會の空をけがしてもらはないやうにするには、彼女たちからお金とすきをうばつて健實生活苦をおもひ知らせるにしくはない——といふのろひの聲もわいてゐる有様

…◇…

ともあれ、いつの場合もダンスホールがこの腐肉媒介物になり、かならずダンス教師がかげに働くのを見るとダンス場を、男子のみ——女子のみ——とかぎり、絶然區別して、男女組んで踊ることを禁ずるのが最善策であらうと云ふ[illegible]ターさ、一緒にさせばれてゐる、且つタンサーをのぞく不貞の婦人のタンス場入りを徹底しようか？といふのが當局の意こうである

…◇…

全くかつてもかつても根の絶えぬ桃色マタムよ！如何に、憎むべきバチルス的存在であるかを自ら知つて恥ぢぬか？

…◇…

とにかく、何等かの手段を講じて桃色マタムの躍進をはかりたいものである

て糊付を終ります

□

次に布の表を下向にして、左右兩端を手で伸つて布巾を引掛げいはゆる[illegible]にわたつて

御存じ？

書物の革表紙にしみのついたときは、水でふいてもおちませんが、卵白をあわ立てゝ、使ひいゝ程度に水でうすめ、やわらかい布にしませてふくと氣持よくきれいにとれます

主婦のメモ

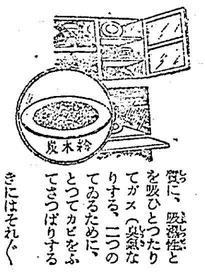
・濕氣や臭氣除けに 木炭を使ひませう

梅雨のつゞいたあとなどは、戸棚に黴が生えて、不快でとても厭なものです。殊に食料品を入れる戸棚は、ふだんでもいろ／＼の食物の香りがむれて、開けると何ともいへない不快な臭ひがします かうした戸棚の濕氣や臭氣をふせぐのに、よくかわいた粉木炭を不用の小どんぶりか皿に盛つて、中段など二三ケ所に入れておくと、不思議に濕氣や臭氣が吸ひ取られて、戸棚の中がいつも氣持よくかわいて清潔が保たれます

これは、木炭の性質に、吸濕性といつて空中の濕氣を吸ひとつたり、ガス吸着性といつてガス（臭氣など）をすひ取つたりする、二つの大きな働きを持つてゐるために、戸棚の中の濕氣をとつてカビをふせき、臭氣を去つてさつぱりするのです

けれども、その働きにはそれ／＼限度がありますから、ときぐ新しいものと取りかへるとか、または日光によくあてゝ乾燥するやうにしなければなりません

木炭を日光にあてると、その熱のために、吸ひ取つた濕氣や臭氣を吐き出しますから、また元にかへつて新しいもの同樣に役立つのです



張り物の新法方を考案

どうぞお試しください

女子專門學校教師 山下榮三

今は張物の季節です、從來の張物の仕方は伸子張、板張、手伸張など布の性質によつて變へてゆくのが本式ですが、これらの長所を採つて家庭でかんたんに、然も本職に出したのと同じやうに出來るはり方を御紹介いたしませう

□

まづせんたくした布を、普通の伸子ばりの時と同樣に、兩端にあり合はせの兩布を布幅一杯に、三寸位の長さに縫ひつけます、はり手の縫目を兩端にとりつけます、はり手の幅が丸い時は糊が通せるやうに端布を輪にしてぬひつけます（張る布の長さは半反あての方がせまい場所で出來ます）

□

次に裏を上にむけ、兩端と横の縫ひ目だけに裏から伸子をかけます そして糊液をハケで布の裏面に平らに引きます、糊はたつぷりふくんでゐる中はハケで輕く、段々強く布地にあてるやうにし、次に左右に引伸ばします、そして糊液が布に十分染みましたら表の毛羽をおさへるために布を表にかへし、ハケに糊をつけずに、布の表を刷いし、布巾をとゝのへ、そのまゝかわかし、布がすつかりかわいたら裏面から布全體になるべくまだらなく僅に水霧を吹きかけ直に伸子、手柄を外し、しめりがかわかぬうちに、裏面を内側にして反物の心棒か何かにまきつけます

□

そのまゝ二三十分間放置しておき、しめりがヌノに行きわたるのをまつて、裏を上向にして仕上げ臺の上にひろげ、ヌノ巾をとゝのへながらアイロンをかけます

□

この方法はヌノを半反宛にするために場所を要しないこと、ヌノが縱に伸びすぎるのをまぬかれると共に、ヌノ幅を出しやすいこと、また全體に伸子をはりませんからヌノに伸子目がつきません、またぬらすとすぐ縮む木綿縮の類の仕上げも出來ますし、近年のやうにより強い撚をたて糸に織込んだ織物でも艶消しの心配などといふことはありません

□

仕上げの注意として、ちりめんや御召は湯のし仕上げが適當ですが熟練しないと幅をとゝのへることがむづかしいものです、しかしこの方法によつて糊液の代りに水霧を吹き、ヌノに僅のしめりをあたへてから手伸しして幅をそろへて乾し、全體に蒸氣をあてゝしぼを立てれば、湯のし仕上と殆どかはりません

秋の空は なぜ青いか

濃度を計る空色板

——秋の空は、なぜあんなに青いのだらう

◇九月から十月の初旬を踊くと、夏の暑さで、海に山にをどり出てゐた人々が、靜かな街路に歸つて來るやうに、暑さで空中にをどり上つてゐた、ほこりや水蒸氣が、氣温の低下につれて古巣の地上めがけて段々さがつてくる、從つて空はすみ清められる、邪魔で、今まで空の塵あいに吸收されてゐた光線が、始めて開放され、心ゆくまで天空を美しくいろどるのである、秋の空の青いわけは、實に空中に塵あいや水蒸氣が少いわけである

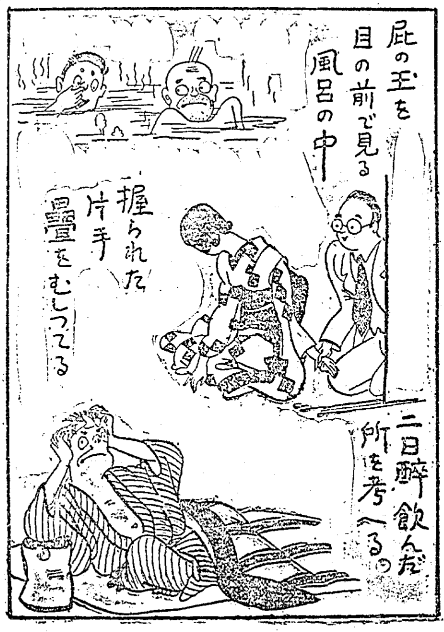
◇空の色の濃淡は「空色板」できめられる、それは二寸に四寸位の長方形の青色の板で、濃淡によつて番號から十三までの十四種の種類がある、板の中央には一つの穴があいてゐる、そこで板を手に取つて空に合はせると、穴の色が板の色と全く一致するものがある、するとその板が空の色になるわけで、したがつて空の濃淡がはつきりとわかる

◇東京の秋空で一番青く見える時でも「空色板」では四號位である、富士の頂上などになると、グッと青く七乃至八と云つた濃度になることがある、七、八の空と云へば、まづ青インキで空一面に塗りつぶした程度である

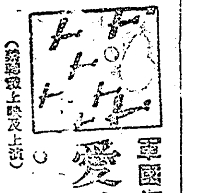
◇秋の青空はそのまゝで冬にもつづくが、人々は冬の空にはあまり關心を持たない、それは冬は寒くて人々は青空を仰ぐ餘裕を持たないためでもあらうが、もつと大きな理由は、にごつた夏の空から、すみ渡つた秋の青空への人々の心の轉向が第一の原因であらう、秋の空こそは一年中で一番人々の心をとらへる美しい色を持つてゐる

川柳漫画

井伊平六画


屁の玉を目の前で見る風呂の中
握られた片手疊をむしつてる
二日醉飲んだ所を考へる

軍國海軍小説



（[illegible]上映及上演）

愛慾非常線

寺崎洋之洲作 松村秀彦畫

……間九……

汚辱（五）

何事も知らない史郎はさう云ふのであつた。それには富子は何とも答へられなかつた。

その夜、果して史郎の留守の時に、山田は訪ねて來た。

『富子さん、暫らくでしたね』

山田は富子の顔を見るなり、そんな馴れ／＼しい口のきゝ方をした。

『まあ、貴方は、よくも、妾に顔が合はされますね！』

富子は怒りに顫へながら云つた。

『いや、さうおしやられると一言もありません。然し、私も貴女のお蔭で、そらこんな片盲目になつてしまひましたよ』

山田は、盲した片方の眼を指しながら云つた。

『そ、それは自業自得ですわ』

『はゝゝ、自業自得ですか。いや、さうかもしれませんよ。然し、貴女もよく、かうして濟ました顔をして、恥かしくも苦しくもありませんね……』

『………』

富子は口惜さうに、じつと下唇をかみしめた。

山田は富子の苦しむ様子を眺めてニヤリと笑ひ、ます／＼いざり寄つて

『それとも、貴女は[illegible]に熱す證據にはつていらつしやるんですか？』

『まあ、貴方は何んと云ふひどい事をおつしやるんです！』

『いや、貴女の出様によつては夫を欺いても構はない……と思ふ私もこんな事は云はないで濟んだかも知れませんよ』

山田はさう云つたが、急に言葉の調子を變へて富子の方にぢり／＼寄りながら

『富子さん！僕は今でも貴女を愛してゐるんですよ。僕には到底思ひ切れないんです』

『まア、そんな事をおつしやるのはよして下さい。妾には夫があります！』

富子は山田から身を避けるやうにして云つた。

『夫ですつて？アハハ』

『何を笑ふのです？失敬な』

『いや貴女は貞女ですよ。然し結婚前に貞操を棄てゝしまつた貞女と云ふものがあり得るものでせうか！』

『えッ？』

『いや、そんなに驚かなくとも大丈夫ですよ。私は他人に貴女の秘密を殺からなどとは思つてゐないんですから。只、貴女の方で僕のその心持を汲んでくれて、も少し色好い返事をして下さりや、何も事を荒立てやうなどとは思つちやゐないんです』

山田は飽くまで落着いて富子に迫るやうに云つた。

『ま、失禮な何んとおつしやつても駄目です。歸つて下さい』

『ぢや、貴女は、貴女の秘密を貴女の夫、青木君に話されても恐れないんですか？』

『え、話すならお話しなさい！』

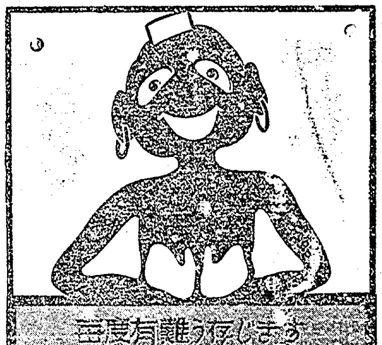
富子は憤怒を呑まされるやうな思ひでさう云つたが、云ひ終ると同時に目が眩んで打ち倒れた。

山田は勝ち誇つた笑ひを頬に浮べ乍ら歸つて行つた。

富子は、一時に全世界が崩れかゝつて來たやうな絶望の淵に突き落された。然し、それでもまだ夫は許して呉れるかも知れないと云ふ微な望があつた。その微な望みに取縋つて彼女は自殺することだけはしなかつた。

良酒と洋食
經濟本位

毎度有難う存じます
レストラン
平富舘
電624



季節…料理
江戸前
鳥・あわび
うなぎ蒲焼
やな川
仕出迅速
魚榮
平市田町（電話四二四番）
『料理見習人大至急入用』

齒科一般
平市田町（安濟醫院向）
齋藤齒科
東京齒科醫學士 齋藤賢三

平市田町
市原醫院
電話一一四番
市原卯太郎
市原陸郎
市原三男
（毎日午後二時ヨリ九時マデ）
内科、小兒科、一般外科、内臓外科、皮膚科、婦人科、花柳病

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
體温計
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
開内藥局
電話四〇番
寫眞材料一式販賣致シマス

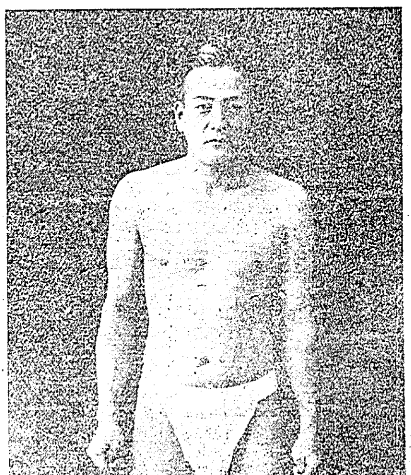
（夜間診療）
胃腸 性病
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
胃腸性病 松村醫院
平市南町（電一〇一七番）

石炭
コークス
豆炭
阿部石炭店
平驛前 電三十七番

國旗と提灯
平四 スガヤ

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

新案特許第二三三一五五號
●保健サル又●
運動に！活動に！最も輕快！
七大特長
一、胃腸健康增進効果
一、保健腹帶兼用
一、体裁ノ最優美
一、穿心地ノ輕快
一、耐久力ノ豊富
一、洗濯簡單
一、價格ノ至廉
——定價——
大 0.30
特大 中小 0.28
▽當地有名洋品店に有△



★出征記念に是非★
送別會
訣別の辭
送別の辭
〔よき記念〕
◎…銃後の人々に
◎…吾が兩親、妻子に
◎…家憲、子孫の爲め訓話
◎…出征歡迎式狀況
其他レコードは永久に保存出來ます
本機特價提供
電話次第見本持參實驗お相談致します
平市二丁目
日東商會
電話四二八番

科學日本の凱歌！
聲の寫眞 完成!!!
超速度レコード吹込
◇…あなたのお聲を即座に聽ける
◇…レコード盤は理研特許金屬
◇…堅牢無比、體裁優美、音質清澄
理研特許輕金屬盤 兩面一枚吹込 金三圓也
電話次第一枚にても出張吹込致します

かまぼこ 製造
[illegible]
お惣菜用、さつま揚、吉原揚……
[illegible]
平市一丁目 電話一四一番

耳鼻
咽喉 科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）